Think of Next

CSR報告書

Vol.5 2017

トップメッセージ

トピックス

NEXT 15 Targets

CSR 7つの中核課題

中特グループ

企業理念

使　命

「私たちは生活環境革命で人々を幸せにします」

基本姿勢

1. 私たちは、私たちを取り巻く全ての人々に誠実に接します
2. 私たちは、時代の風向きに敏感に反応し、いかなる時代が来ようとも存続します
3. 私たちは、共に地球に暮らす一員として、社会のために役立つ存在となります

行動指針

1. 明るく元気に
2. 迅速丁寧
3. 目配り気配り思いやり
4. ピンチはチャンスのプラス思考

目指すポジションNo.1

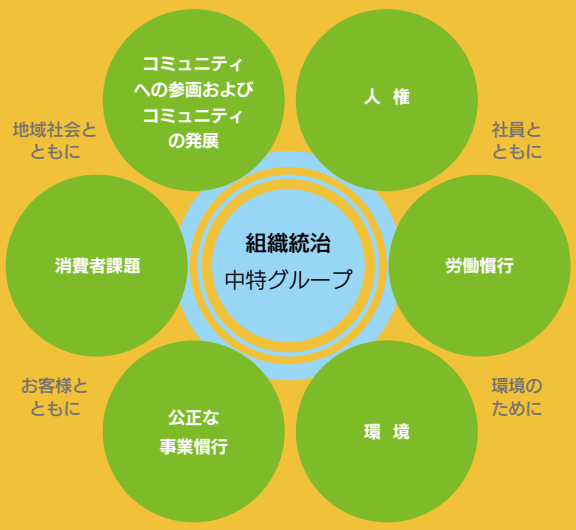
- 社員の幸せNo.1
- お客様の満足No.1
- 社会に貢献No.1
- 未来の創造No.1

ＳＤＧｓは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。
2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）です。
中特グループは、持続可能な開発目標を支援しています。

目次

トップメッセージ……3〜4
トピックス……5〜8
NEXT 15 Targets……9〜12
環境のために……13〜14 ― 環境
地域社会とともに……15〜18 ― コミュニティへの参画およびコミュニティの発展
社員とともに……19〜21 ― 労働慣行・人権
お客様とともに……22〜24 ― 消費者課題 公正な事業慣行
労働慣行……25〜26
安全衛生防災活動……27〜28 ― 労働慣行・人権
第3者意見……29
組織統治……30 ― 組織統治 公正な事業慣行

ISO26000　7つの中核課題



編集方針

中特グループのCSR／CSVの取組みと事業活動はじめ各種活動をステークホルダーのみなさまへ分かりやすくご報告するよう編集しています。紙面の都合上掲載できなかったデータ等はホームページ等で開示していますのであわせてご覧ください。

作成にあたっては
環境報告ガイドライン2012年版、「ISO 26000」及び国連持続可能な開発目標（SDGs）を参考にしました。

◆対象期間
2016年11月〜2017年10月
（一部対象期間外）

◆対象範囲
株式会社中特ホールディングス
中国特殊株式会社
株式会社吉本興業
株式会社リライフ
株式会社藤井興業

◆発行時期　2017年11月

◆お問合せ先
株式会社中特ホールディングス
CSR推進室
山口県周南市大字久米3078番地の1
URL　http://www.chutoku-g.co.jp/
TEL 0834・26・0500
FAX 0834・25・2856

トップメッセージ

中特グループCEO　橋本ふくみ

私たち中特グループは、「今取り組むべき社会課題は何だろうか？」を問い続け、今後とも社員一同精進して参ります。

世界中の皆さま、日頃より私たち中特グループが大変お世話になっておりまして、誠にありがとうございます。

私たちがＣＳＲについて本気で取り組み始めたのは、２００２年ＩＳＯ１４００１取得の頃からでした。以来、毎年活動の幅も広がり、その度に社内外へ広く浸透されるところとなっております。

早いもので報告書も今号でＶｏｌ．５となり、報告書の作り方がわからず、他社さんへ教えを乞うた当時を懐かしく感じております。

CSR 報告書 Vol.1

先日、ＣＳＲについて勉強する機会があり、その際にＣＳＲとは「義務ではないが必要である」という言葉に改めて考えさせられるところとなりました。

いくつか理由がありますが、特にＥＳ（社員満足度）ＣＳ（顧客満足度）に加えて、今後はＳＳ（社会満足度）がその企業のカギを握ると言っても過言ではないということです。

CSR 活動の取組み

ES（社員満足度）	・人材育成 ・チーム力向上 ・本気のプロフェッショナル
CS（顧客満足度）	・中特ブランドの醸成 ・お客様の信頼 ・安全、快適な生活環境作り
＋	
SS（社会満足度）	・社会貢献活動 ・循環型社会形成に尽力 ・持続可能な開発 ・「幸せ」を共有する未来

例えば、コンプライアンスについては、法令順守は最低限のことであって、それ以上の社会対応力が求められる時代になってきています。ＳＮＳ（ｗｅｂ上での社会的ネットワーク）の広まりにより、良くも悪くも情報があっという間に広まり、企業も、国をも一瞬にして違う風を吹かせてしまう。去年の「いいね！」が今年の「いいね！」とは限らないのですね。

法令は守るか守らないかです。しかし、ＳＳ（社会満足度）はその時々で変わるものです。

中特グループの基本姿勢の一つは、「私たちは時代の風向きに敏感に反応し、いかなる時代が来ようとも存続します」です。

私たちは、私たちが「今取り組むべき社会課題は何だろうか？」を問い続け、今後とも社員一同精進して参ります。

皆さま、どうぞご指導の程よろしくお願い致します。

ROSE7社包括業務提携

2015年3月12日のプレスリリースでお知らせいたしました包括業務提携につきまして、スズトクホールディングス株式会社（2017年11月1日より「リバーホールディングス株式会社」に社名変更）、株式会社エンビプロ・ホールディングス、株式会社イボキン、株式会社やまたけ、株式会社マテック、株式会社青南商事で活動しております。

成長戦略、営業、生産技術、環境監査、情報システム、管理、その他の分科会に分かれ、定期的に会合を行い、情報交換・討議・懇親を重ねています。

2017年5月グループ名を「ROSE（The Recycle Organization for Sustainable Earth）」に決定いたしました。

ROSE
The Recycle Organization for Sustainable Earth

「青いバラ」の意味

世界の育種家が挑戦し続けているが、いまだに遺伝子操作に頼らない青いバラはこの世に存在していない。英語でのBlue Rose（青いバラ）は「不可能」といった意味さえ含まれるほどです。私たち7社のリサイクルカンパニーも、リサイクルの先にある循環型社会の完遂や技術開発、インフラ設備実現といった大きな夢に挑戦し続けるという意思を込めて青いバラをビジュアルシンボルとするものです。

女性分科会開催

2017年10月30日・31日にROSEの女性分科会が㈱中特ホールディングスで開催されました。

㈱リライフの工場で各施設を熱心に見学した翌日はランチをはさんだミーティングを行いました。女性がいきいきと働くための工夫や仕組み作りなど質疑応答を交えながらの活発な意見交換の場となりました。

全員が各々刺激を受けた有意義な二日間となりました。

熊本地震支援感謝状授かる

感謝状

中国特殊株式会社 殿

責社は平成二十八年熊本地震による下水道管路施設の被災にあたり本協会の会員として厳しい環境のなか業務に従事されましたその結果は早期復旧に生かされ地域の人々の要望に応えることができたものと確信しております ここにその貢献に対し深く感謝の意を表します

平成二十九年六月吉日

公益社団法人 日本下水道管路管理業協会
会長 長谷川 健司

2016年4月に発生した熊本地震による下水道管路施設復旧のための支援業務について、公益社団法人日本下水道管路管理業協会より感謝状を賜りました。

熊本地震時には、飲料水・お菓子・毛布など支援物資を集め被災地へ馳せ参じました。また地震で損傷した下水道管路の調査支援、データ整理などの後方支援などを実施しました。

今後も万一の事態に備え、準備を怠りなく体制を整えておきます。

周南市ふるさと納税のお礼の品にらくらくお片づけセットなど選定

このたび、周南市のふるさと納税返礼品にポータルハートサービスの商品が追加されました。

ふるさと納税とは、「応援したい」自治体に贈る寄附金のことで、収入などで決まる限度内なら、寄附額から原則2000円を引いた額が所得税・住民税から控除されるうえ寄附のお礼として返礼品を送る自治体が多くあります。このサービスはふるさとにいる高齢になった両親の見守りや実家の片付け・空き家の問題などが解決できる点と納税によってふるさとへ地域貢献ができるという点でふるさとへの恩返しができます。

- **らくらくお片付けセット**
  寄付金額　45,000円
- **不用品回収プラン（1tトラック）**
  寄付金額　95,000円
- **親御さん見守りプラン**
  寄付金額　35,000円
  95,000円
- **空き家見守りプラン**
  寄付金額　60,000円
  95,000円

サイト内 PHS で検索

中間処理場閉鎖

2016年11月4日(金)に中国特殊(株)の汚泥中間処理施設が周南環境保健所の検査を終え、正式に閉鎖。28年の歴史に幕を閉じました。

この施設は、建設現場などから排出される高含水の汚泥を天日乾燥によりセメント原料にリサイクルしてきた施設で、地域の皆様の絶大なるご理解とご協力のもとに、今まで運営してきました。

時代は過ぎ、新たな処理機能を備えたリサイクル施設（脱塩・分離・改質施設）が2015年下松リサイクル工場に完成し、その役割を譲りました。

地域の皆様、お客様、長い間ありがとうございました。

山口県産業労働懇話会委員委嘱

2017年6月1日より、中特グループCEO橋本ふくみが山口県産業労働懇話会委員に委嘱されました。

山口県産業労働懇話会は山口県産業労働懇話会設置要綱に基づいて設置されています。

労働経済が国際化する中で、特に山口県の中小企業労働関係の安定、経済基盤の確立等、体質強化の必要があることに鑑み、県内の労使関係者が一堂に会し、共通の基盤に立って、山口県産業労働問題の諸課題について広く意見を交換し、相互の理解を深めるとともに、県への提言を通じ、山口県産業の振興と労働者の生活向上を図ることを目的として設置されています。

TOPICS

2017 News Chutoku Group

中国山東省来場

山口県と中国山東省との友好協定に基づいた山東省環境保全パートナーシップ事業の一環で、2016年12月16日(金)に技術研修生の方が㈱リライフの工場見学に来社されました。

中特グループや㈱リライフについての説明の後、リライフの各施設をご見学いただきました。

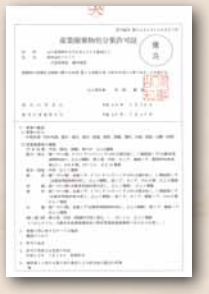
中国からご訪問いただきありがとうございました!

中国特殊・リライフが優良産廃処理業者の認定

このたび中国特殊㈱が2017年1月に、㈱リライフが7月に優良産廃処理業者の認定を受けました。

また、㈱藤井興業が現在申請中です。

優良産廃処理業者認定制度とは、通常の許可基準よりも厳しい基準に適合した優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が審査して認定する制度です。



CSRセミナー開催

CSR検定試験実施に伴い、2017年10月4日(水)CSR検定の提唱者で㈱オルタナ代表取締役の森摂氏にご来場いただき、CSR基礎知識や最新動向についてご講演いただきました。

40名を越える参加者があり、熱心に聴講されました。

CSR検定試験開催

このたび「新CSR検定」が山口県周南市で実施されることとなり、2017年10月22日(日)に㈱中特ホールディングスセミナールームで実施されました。

企業や組織が「社会対応力」を向上させ、不祥事を起こさない強い組織をつくり、企業・組織の価値を向上させるためにも、すべての社会人がCSRの基礎を理解することが必要です。

CSR検定には初級者向けの3級と中級者向けの2級とがあり、より多くの方にCSRを理解していただくことを目的に実施しています。

喜働力塾開講

㈱中特ホールディングスでは8月より「セミナー事業」をスタート。初回はナニワのメンターこと吉井雅之氏による『喜働力塾～中特グループ特別バージョン～』です。

自己実現のための習慣形成、自立型リーダーの育成など、社員研修や自己啓発・モチベーションアップに役立つ内容となっております。

【日程・内容】

第1講座　8月21日(月)
■継続力を身につける目的
■凡事徹底

第2講座　9月19日(火)
■自立型姿勢の定義と実践
■言語習慣トレーニング

第3講座　10月25日(水)
■自立型姿勢の実践検証と次への課題
■喜感力養成トレーニング

第4講座　11月20日(月)
■見本、信頼、支援の在り方とは

第5講座　12月19日(火)
■良き影響力のある生き方を追求

第6講座　1月23日(火)
■本気と決意

【講師】吉井　雅之 氏
■有限会社シンプルタスク代表取締役
■No.1習慣形成コンサルタント
■喜働会会長
■JADA(日本能力開発分析)協会認定SBT1級コーチ

アルキメデスポンプ特許取得

中特グループは、徳山工業高等専門学校との共同研究を通して、アルキメデスポンプを開発し特許を取得しました。(特許第6139637号)

アルキメデスポンプは古代ギリシアのアルキメデスが開発したとされるポンプの一種です。このポンプは螺旋状にホースを巻きつけるだけの簡単な構造のため、壊れにくく太陽光などの小さい電力でも動かすことができる特徴があります。

アルキメデスポンプは回転させることで揚水します。しかし、従来のアルキメデスポンプは取水口が常に水中にあると揚水量が著しく低下するため実用化されませんでした。

そこで、取水口が水中にある場合でも高効率に揚水できる二重螺旋ポンプを徳山工業高等専門学校との共同研究を通して開発し、特許を取得しました。

未来開発部実験室・ゲストハウス完成

2017年9月に㈱リライフ下松工場に未来開発部の実験室・ゲストハウスが完成しました。

実験業務等の業務遂行が加速すること、並びに納入会社の運転手さんやお客様にゆっくり休憩していただきたいと思います。皆さまどうぞご利用下さい。

NEXT 15 Targets

次世代のために果たすべき、中特グループの１５の課題

すべては　次世代　のために・・・“Think of Next”
いつも、環境のこと、社会のこと、子どもたちのこと・・・・を考えています。

“Think of Next” CHUTOKU GROUP

中特グループは、地域社会に強く必要とされるために、次世代のために、環境のこと、社会のこと、子供たちのこと、・・・・・を考え、全社一丸となって取り組んでいます。

利害関係者のニーズ及び期待、中特グループを取り巻く状況及びリスクと機会を検討し、2015年度から2017年度までの3か年に実行すべき経営目標・環境目標を次の通り15の課題として掲げ、全社一丸となって取り組んでおります。

No.1　中特アカデミーによる自己成長

社員の自己成長を図り、自ら考え行動する自立型姿勢を基本に、中特グループ目標を達成実現できる人を目指し「中特アカデミー」を実施しています。

初年度2015年度は全員7単位、2016年度は一般社員13単位、リーダー以上25単位習得とし、今年度は英会話、ヨガなどさらに幅広く研修すべく取組んでいます。

必須科目として、企業理念教育・マナー研修・習慣形成など、選択科目として、各部門の業務内容などを研修しています。

必須科目	一般社員 リーダー	中特グループ理念	２単位
		習慣形成	２単位
		廃棄物処理法	２単位
		会計知識	２単位
		マナー研修	１単位
	リーダー	自立型リーダー研修	１２単位
		財務会計研修	２単位
		労務管理研修	２単位
選択科目	一般社員 リーダー	各部門教育	３単位
		英会話	１回／月
		ヨガ	１回／月

No.2　チームパワーによる改善提案

従業員の問題意識を高め、業務の効率化・コスト削減・省エネ・安全等々を進めるため、改善提案提出を奨励しています。

2014年度までは、提出することに重点を置き活動していました。

2015年度から、改善実施及び改善の内容に重点を移し、採用実施件数100件／年→300件／年と引上げる目標に変更、評価・表彰の仕組みを作りました。

2016年度は全グループ提案件数383件、実施件数2015件となり、前年度比減少となりました。2017年度はグループ全実施目標件数300件／年で取組みます。

～2014
１人１件／月の提出目標で取組み

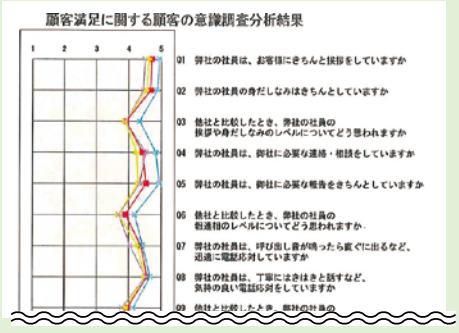
↓

	2015	2016	2017
提案総件数	435	383	500
実施採用／年	255	205	300
	実績	実績	目標

No.3　お客様満足度向上
評価4→4．2（2018年度）

お客様満足度の前回アンケート評価は2013年5～6月に実施しており（ＣＳＲ報告書Vol.　1記載）、5段階評価で4.0でした。

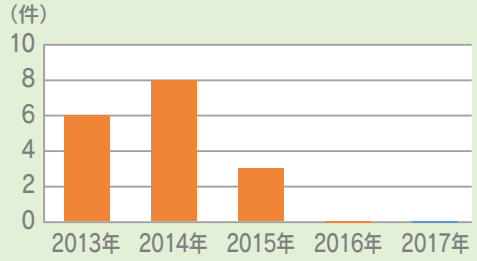
次回アンケートは2018年度に予定しており、評価点4.2を目標として取り組んでいます。



No.4　苦情件数削減、目標０件

苦情についてはゼロ目標で取り組んでまいりました。2015年度3件の苦情が発生しておりましたが、2016年度は初めて苦情0を達成しました。

今年度は引き続き0件を目指すとともに、「お客様の声」収集の中のお叱り・クレームの内容について分析を行い、苦情に類するものの解消を図って行きます。



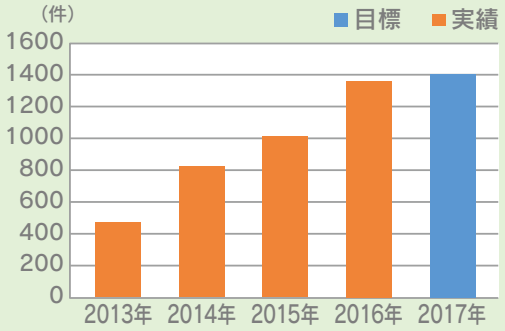
No.5　お客様の声収集

私たちの収益の源は「お客様」です。

その「お客様の声」にしっかりと耳を傾け、お客様のニーズをとらえ、それを活かすことで顧客満足度を上げ、私たちのレベルアップから、さらなる顧客サービス向上につながります。また苦情やクレームは「宝」、業務改善の大きなチャンスです。

2016年度のお客様の声収集は、目標1,300件／年に対し、1,361件／年と目標達成率105%

2017年度は、1,400件／年の目標で取り組んでいます。

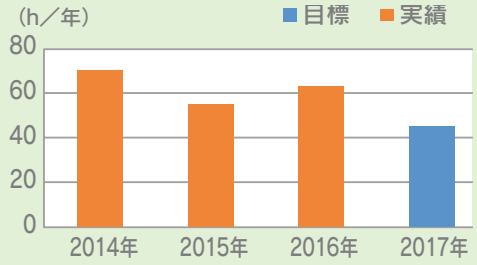


No.6　業務の生産性向上・時間外削減

ワークライフバランスの観点からも、業務の生産性を向上し、時間外の削減に取り組んでいます。

働き方改革など叫ばれていますが、中特グループでは、「夕方6時には事務所消灯」のかけ声のもと、業務の生産性向上に努めています。

2017年度時間外目標を45h／年としています。

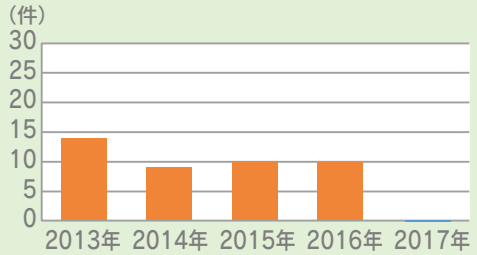


No.7　事故・災害の撲滅

災害事故は常に"ゼロ"を目標に取り組んでいます。

業務の内容に関連して車両による小規模な物損事故が散発します。

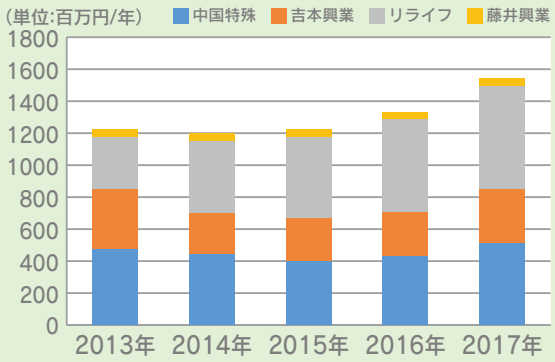
ＪＢＫ（事故撲滅研修）・RA（リスクアセスメント）活動その他諸々の活動により年間10件まで削減しましたが、さらに安全運転・かもしれない運転・ゼロ災活動を徹底して事故ゼロを目指します。



No.8　年間売上高

売上高は、2016年度13.4億円でしたが2017年度目標15.5億円としています。

少子高齢化、人口減、周南コンビナートの操業減少・産廃減少など、厳しい状況ではありますが、リサイクル事業拡大・新規事業の展開・異業種との連携など売上増に取り組んで行きます。

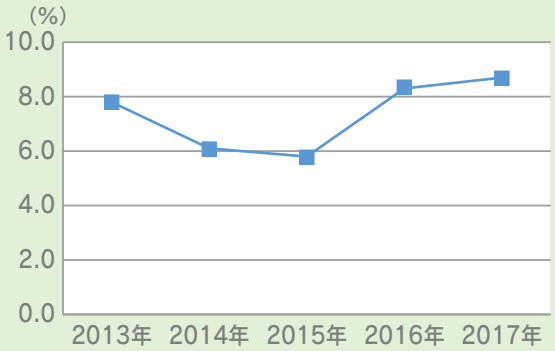


No.9　営業利益率

営業利益率は6～8%でしたが、9.5～10%にすべく取組んでいます。

2016年度実績8.3%でしたが2017年度目標8.7%で計画しています。

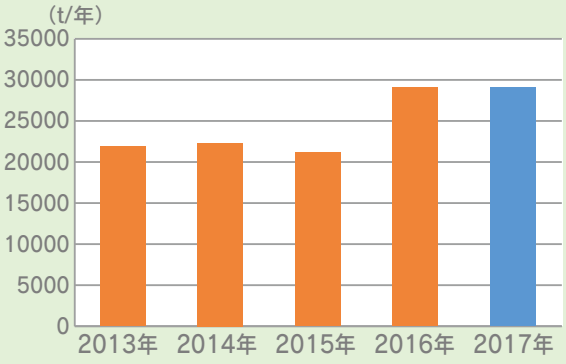
受注からの各プロセスについて収益を見直し、改善を進めてまいります。



No.10　受入量の拡大

資源物（汚水・脱塩・改質・その他）受入量は、地域環境維持向上のため、お客様のニーズに応えるため、売上増のため、15%／年ずつ拡大すべく目標を立てています。

2015年度は客先事情により減少しましたが、2016年度は、前年度比138%大幅増加となり、目標を達成するとともに過去最高の実績となりました。

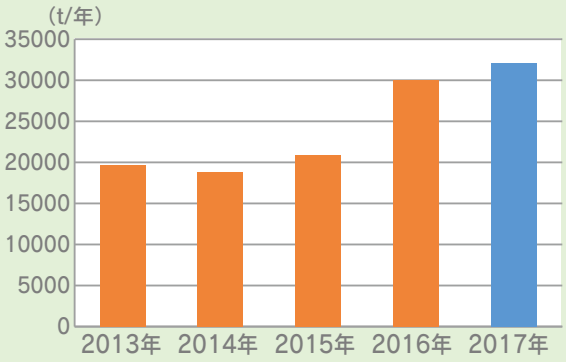


No.11　再資源化量の拡大

汚泥等の再資源化量についても受入量と連動し、15%／年の拡大を目標として取り組んでいます。

2016年度は前年比約144%の大幅増加となり目標を達成しました。

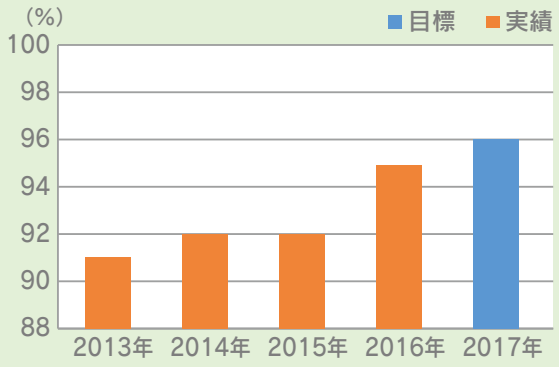
引き続き量拡大に取り組んでまいります。



NEXT 15 Targets

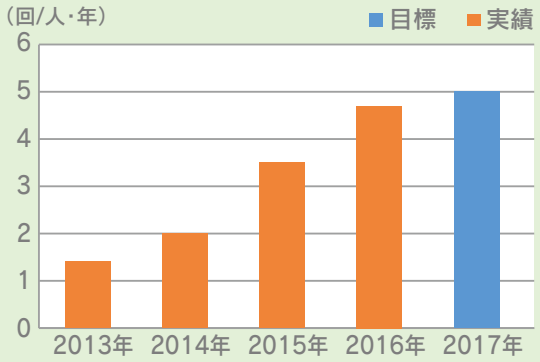
No.12　リサイクル率アップ

産業廃棄物のリサイクル率、現状92%を95%とすべく取組んでいます。
2016年度は94.9%とほぼ目標達成しました。
2017年度はさらに向上を目指し96%目標で取組んでいます。



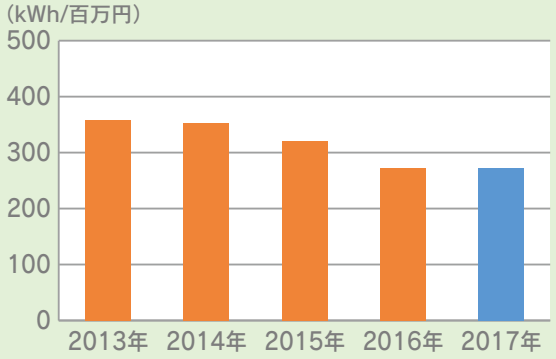
No.13　ボランティア活動への参加

環境保全ボランティア活動への参加は従来の延べ回数から、2015年度より１人当たりの年間回数へ変更しました。
2016年度は目標4回／人・年に対し実績4.7回／人・年となりました。



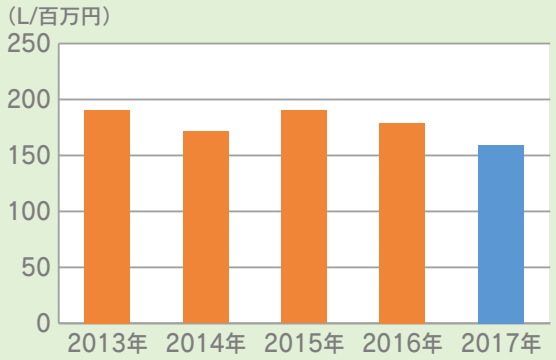
No.14　電気量原単位の削減

省エネ法では一定以上のエネルギーを使う事業所はエネルギー使用効率を毎年１%向上させることを義務づけています。
中特グループは合計でも原油換算量1,000KL未満なので義務付けされませんが、電気量原単位を省エネ法の2倍２%削減を目標にして取組んでいます。
2016年度は、各部門の電気量削減努力並びに売上高増加により約15%削減できました。



No.15　燃料使用量原単位の削減

燃料原単位についても、電気量と同様に年２%削減目標で取り組んでいます。
2016年度は前年度に対し約６%削減となりましたが、2014年度に対しては約４%増となっており目標に届きませんでした。今後とも効率的な運航ルート、アイドリングストップなど燃料削減の取組みを継続してまいります。



環境のために

「中特グループは、地球上の全人類及び地域社会とともに持続可能な発展をするために、環境保全に努め、環境に優しい企業活動を行う。」という基本理念のもと、地域環境活動を推進しています。

ぶちエコやまぐち宣言

今年も山口県が提唱しています「ぶちエコやまぐち～CO_2削減県民運動～」に中特グループで取組み宣言しました。

クールビズ

事務職中心にノーネクタイのクールビズを呼び掛け実施しています。同時に冷房のON・OFF・温度管理にも注意しています。

エコドライブ

環境目標で燃料消費削減を目標にしています。エコドライブに心がけ、アイドリングストップを励行、ルートを効率よく最短ルートで行く等々実施しています。

エコ活動

中特グループオリジナルエコバックを作り配付しています。
環境美化活動にも積極的に参加或いは企画しています。

緑のカーテン

本社事務所、リライフ事務所など4拠点でゴーヤ、へちま、琉球アサガオなど部署別にプランターを準備し取り組んでいます。

ノーマイカー運動

山口県及び周南市に賛同し毎月第3金曜日実施しています。参加率20～30%で延べ削減距離は片道約120km強です。
最近は自転車・バイク・JR・バス・徒歩通勤に切り替える社員も増加してきています。

トップインタビュー

環境ISO14001認証と2015年版移行

2002年に認証後15年経過していますが、ISO14001は2015年に大幅改訂され改訂後3年以内(2018年までに)移行することが必須でしたが、2017年6月更新審査を受け2015年版に移行を完了しました。

審査風景

ISO14001:2015年版差分セミナー開催

2016年12月3日(土)2015年版への移行に関し、社員の理解を深めるため、中特ホールディングスセミナールームにて外部講師(JACO)をお招きし、改訂差分セミナーを開催しました。

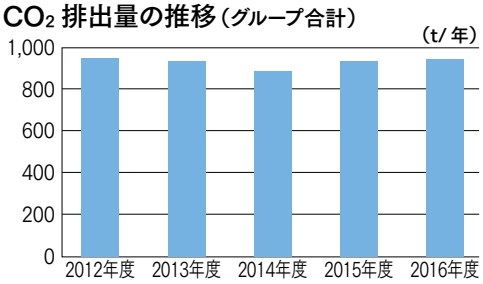
対象者はEMS運用の中心となる内部監査員及び管理者とし、1日コースのセミナーで最後には理解度確認テストも受けました。

CO_2削減について

ご存じのようにパリ協定が発効し、日本も2030年までの削減目標を定めています。これにならって中特グループもCO_2削減を推進します。

2016年度は電気使用量は削減できましたが、燃料消費量が増加したためCO_2発生量は微増となりました。今後日本政府の削減目標以上の削減を環境目標に入れて具体的な削減に取り組んでまいります。

CO_2 排出量の推移（グループ合計）



カーボンオフセット

2017年9月23日(土)・24日(日)に開催された「周南24時間リレーマラソン2017」において、大会で排出される二酸化炭素(CO_2)等の温室効果ガスを相殺する「カーボン・オフセット」に取り組みました。

オフセットした対象は、会場電力使用量や参加者・関係者の日常生活におけるCO_2排出量の一部で、13,000kg分のCO_2をオフセットしました。（下松星プラザにおける照明設備省エネ分）

マテリアルバランス

事業活動に伴う資源・エネルギーなどの投入量と、それに伴う地球環境への排出量を表しています。限りある資源を大切に、環境負荷を最小限にすべく取り組んでいます。

（2016年度分）

INPUT
事業に伴う資源・エネルギー等

汚泥	31,601t
がれき類	870t
ガラスコンクリ他	447t
廃プラスチック類	815t
金属くず類	304t
繊維くず	10t
紙くず類	33t
ダンボール	644t
木くず	497t
廃アルカリ廃酸	448㎥
廃油	313㎥
鉱さい	101t
もえがら	381t
煤塵	87t
石膏ボード	48t
処理水	45,098㎥
水道水	3,409㎥
地下水	2,200㎥
電力	396,382kwh
ガソリン	231,057ﾘｯﾄﾙ
軽油	237,435ﾘｯﾄﾙ
灯油	821ﾘｯﾄﾙ
LPG	140㎥
コピー用紙	214,635枚

中特グループ

OUTPUT
再資源化、地球環境への排出等

セメント原料	26,979t
がれき類	1,244t
ガラスコンクリ陶磁器	918t
廃プラ	751t
ペットボトル	85t
金属くず	310t
缶	92t
紙・繊維くず	35t
ダンボール	644t
木くず	173t
アスファルト材	0t
廃油	0t
肥料原料	17t
汚泥焼却埋立	64t
石膏ボード	52t
処理排水	45,340㎥
下水排水	3,390㎥
地下水排水	2,150㎥
CO_2排出量（換算）	946t
一般廃棄物	1,631kg

リサイクル率：94.9%

地域社会とともに

中特グループは、地域社会の一員として、地域社会とのかかわりを大切にし、グループ全社をあげて様々な企業活動を行っています。

エコフェスin周南24時間リレーマラソン

今年度のエコフェスは２０１７年９月23日(土)にリニューアルした周南24時間リレーマラソンのイベントとして開催しました。

今年は、徳山大学のスポ・レクフェスタと、中特グループのエコフェスのコラボ企画でマラソン大会の盛り上げを図りました。

当日は好天にも恵まれ子ども達など１,０００人を越えるたくさんの方にご来場いただきました。

スポ・レクフェスタ

こどもの運動能力を高めるには幼少期のうちに様々な動きを遊びの中で体験しておくことが大変重要ということです。

徳山大学の学生が遊びの指導を楽しく行うということで、子供たち或いは親子づれでたくさんの方がスポーツを楽しんでおられました。

エコフェス会場での回収ボックス設置による小型家電回収

現在、東京２０２０オリンピック・パラリンピックに向けて、競技大会のメダルを全国各地から集めたリサイクル金属で作るという国民参加型プロジェクトが稼働中です。

東京２０２０大会をきっかけに、持続可能社会の仕組みを作る取組です。

エコ工作

リサイクル工作はペットボトルを利用した風車・リサイクルカーの製作体験をしました。
リサイクルカーは難易度が高かったのか皆さん少々苦戦していました。

ポータルハートサービスによるフリーマーケット

フリーマーケットを開催し、リーズナブルな価格で日用品・生活雑貨などを提供しました。
中には超目玉商品もあり、開始早々から多くの方が詰めかけ盛況でした。

パフォーマンスショー・縁日・クイズラリー

ヨーヨー・スーパーボールすくい・回転ダーツ・サッカーナインその他縁日・エコクイズラリーなども行い大変好評でした！

クイズラリー

パフォーマンスショー

縁　日

サッカーナイン

回転ダーツ

■ こどもっちゃ商店街

２０１６年11月23日（祝）、周南市の「第7回こどもっちゃ！商店街」に中特グループエコライフチームが参加しました。

「こどもっちゃ！商店街」とは、団体・企業の方と働く体験を通して、小学生の皆様に働く喜びを感じていただき、将来の夢を描いていただくことを目的としたイベントです。

公式来場者１５，０００人、お仕事体験者８００人強とたくさんの方々に来ていただきました。

中特グループは「商店街ごみゼロ大作戦!!」として、ごみステーションでのごみ分別やごみ回収のお仕事体験していただきました。

リサイクルについてのクイズをした後、お仕事を頑張った証に分別マイスター認定証を贈呈させていただきました！

ご来場いただいた皆様、参加されたこどもたちありがとうございました。

次回も工夫をこらし企画参加いたします。

■ 周南冬のツリーまつり クリーンアップ作戦

2016年12月23日（金）に「周南冬のツリーまつり2016」が開催されました。中国特殊（株）主催で青空公園から徳山駅周辺までクリーンアップ作戦を実施しました。

街をきれいにすることができました！今後とも継続して参加しますのでよろしくお願い致します。

■ 徳山夏祭りごみ分別案内と クリーンアップ作戦

2017年7月22日（土）に「第44回徳山夏祭り」が開催されました。（株）吉本興業主催で、毎年祭りの時に「ゴミ分別案内」と「クリーンアップ作戦」で参加していますが、今年は祭り翌朝にもクリーンアップ作戦を実施しました。夜では暗くて気付かないゴミがたくさんありました。

ゴミの分別にご協力いただきました皆さま有難うございました！

■ はなぐり海岸 クリーンアップ作戦

2017年5月27日(土)、㈱リライフ主催で下松市笠戸島はなぐり海岸のクリーンアップ作戦を実施しました。

海岸に捨てられているゴミや流れ着いた海藻を拾い、また草刈りもしました。

今後も継続して実施してまいります!

■ 環境出前授業

今年も周南市内の各小学校へ出向き環境出前授業を実施しています。

元気良いあいさつから始まり、みんな真剣で静かに聞き、積極的に質問をしてくれたので先生役のスタッフも力が入りました。

◆「瀬戸内の海を美しくする会」の海岸クリーンアップ活動参加◆

「瀬戸内の海を美しくする会」の活動に賛同し、海岸等のクリーンアップ清掃・稚魚放流などのボランティア活動に参加しています。

1 7月2日(日)大津島刈尾海岸清掃・ヒラメの稚魚放流
中特グループ26名参加

2 8月5日(土)、周南市櫛ケ浜漁港岸壁・海底清掃・稚魚放流
中特グループ47名参加

3 9月9日(土)大津島本浦漁港の海浜・海底清掃
中特グループ23名参加

4 9月30日(土)光市島田川埠頭の岸壁・海底清掃
中特グループ41名参加

5 10月14日(土)下松第2埠頭の岸壁・海底清掃
中特グループ22名参加

これからも積極的に清掃ボランティア活動に参加してまいります!

1

1

2

2

3

4

社員とともに

中特グループは、「すべては、応援からはじまるの精神で接する」という社員に関する方針を掲げ、社員は会社にとって一番大切な存在で、社員とその家族を守る事を最大の目標とし、事業拡大よりも優先します。

事業発展計画発表会　テーマ：一意専心

平成29年9月2日(土)　2017年度　中特グループ事業発展計画発表会を遠石会館にて開催いたしました。

■代表挨拶

代表　吉本英子 より

■「前年度総括及び中特グループ未来地図」の発表

CEO　橋本ふくみ より

ご来賓

■サマンサジャパン株式会社
代表取締役会長兼CEO　小野英輔 様

株式会社日本政策金融公庫
下関支店長兼中小企業事業統括
沢田　昭弘様

株式会社山口銀行
櫛ヶ浜支店長　古谷　俊英様

株式会社広島銀行
徳山支店長　小池　政弘様

株式会社西京銀行
周南支店長　岩本　直哉様

表　彰

最優秀部門賞

リサイクル事業部

最優秀改善提案賞

リサイクル事業部
岩﨑 達美

永年勤続賞

中国特殊　大山　隆

eクリーングループ　相吉貴光

被表彰者の面々です。

・デザインセンスがステキで賞
総務管理部　相本百合子
・縁の下の力持ちで賞
CS営業部　岡本理沙
・ラジオ体操一番で賞
eクリーングループ　藤井一成
・懇切丁寧で賞
HOSグループ　松村一人
・無事故で安全で賞
藤井興業　河村英彦

・癒し社員で賞
ポータルハートサービス事業部　尾上秀子
・縁の下の力持ちで賞
ポータルハートサービス事業部　高松真志
・お客様に人気で賞
ポータルハートサービス事業部　豊田裕紀
・誰よりきれい好きなので潔癖で賞
未来開発部　廣中秀光
・汗がすばらしいで賞
再資源化グループ　嘉代泰啓
・穏やかで賞
リサイクルグループ　染矢　勉

懇親会

発表会後は懇親会で各部門の表彰を行いました。懇親会メンバーによる趣向を凝らした楽しいゲームがたくさんあり、毎年恒例のじゃんけん大会では大いに盛り上がりました。

研修旅行

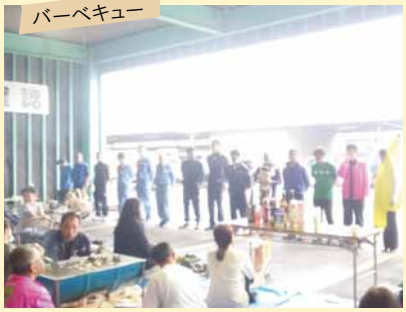
昨年までは会社・班割りにより3グループに分かれて行っていましたが、今年の研修旅行は全社一丸のテーマに沿ってグループ全社合同で行きました。

長門市の藤光海風堂様の製造ライン見学、元乃隅稲成神社、角島大橋、秋吉台秋芳洞、秋吉台サファリランドへ行きました。

親睦行事

親睦会で日帰り旅行、バーベキュー、ビアガーデンなど季節に応じ各種行事を実行しています。

2017年10月14日(土)、今年限りで閉園となるスペースワールドへ行ってまいりました。社員並びにご家族含め70名余りが秋の1日をジェットコースターなどで楽しみました。



バーベキュー

ビアガーデン

スペースワールド

スペースワールドジェットコースター

社員研修能力向上

社員の研修に力を入れて取り組んでおり、各種勉強会、研修会を計画実施しています。社員も自ら能力向上、研さんに取組みレベルアップしています。

また、各種社外セミナー・研修会・講習会への派遣、並びに各種資格試験の受験取得を継続的に指導・奨励・援助しています。

セミナー例

・産廃協会環境セミナー
・貯水槽清掃監督者講習
・浄化槽管理士講習

資格取得例

・浄化槽設備士
・有機溶剤作業主任者
・酸素欠乏危険作業主任者
・建築物排水管作業従事者研修

HOS部内勉強会

総務ロールプレイング

廃棄物処理法勉強会

高圧洗浄勉強会

中特アカデミー・リーダー研修会

中特アカデミーは3年目に入り、さらに充実を図っています。

CEOによる理念教育、習慣形成教育、マナー教育や各部門による総務・営業・ポータルハートサービス事業・リサイクル事業・解体作業などの教育に加え、今年度より英会話、ヨガなど幅広い研修内容にしています。

英会話

ヨガ

リーダー以上については一般社員とは別プログラムで研修を行っています。中特アカデミーではリーダー以上25単位／年（今年度一般13単位）の取得を目指しており、自立型リーダー研修、財務会計などリーダー限定メニューも準備しています。

また、経営目標・環境目標達成のために予算会議として各部門での討議を実施しました。

予算会議

お客様とともに

中特グループは、お客様や地域に愛される企業を目指し、真にお客様の立場になったサービスに取り組んでいます。

■第11回HAPPY！HAPPY!!勉強会

２０１７年６月２日(金)下松市地域交流センターにて、講師にＮＰＯ法人日本ホスピタル・クラウン協会理事長の大棟耕介様をお迎えし、テーマ「道化師流コミュニケーションと笑いの伝播」をご講演いただきました。

「引き」のコミュニケーションや相手のテンションに「合わせる」など、コミュニケーションについてクラウンの芸も交えながら楽しく教えていただきました。

グループ社員１００名に加え、社外より39社69名の方にご参加いただきました。

■お客様向け法務勉強会・新カメラ車デモンストレーション開催

２０１７年４月20日(木)、山口県産業廃棄物協会専務理事兼事務局長の阿部吉明様にご来場いただき、産業廃棄物処理の現状や、産業廃棄物法の概要、処理の実務について詳しくご説明いただきました。

その後第二部では新カメラ車の紹介デモンストレーションを行い、カンツール様にカメラについて詳しくご説明いただきました。

多くのお客様にご参加いただき、有難うございました

■みまもり

中特グループ主要顧客の山口県エリアでも少子高齢化が問題となっており、高齢化率32.1%で全国第4位（2015年）となっています。

中特グループでは周南市と支援事業者協定を結び、高齢者見守りの「もやいネット」に参加し、さらにポータルハートサービスでは「親御さん見守りプラン」のサービスを提供しています。

ポータルハートサービスが、〝みまもりの困った〟を解決します!!

また、高齢者交流のいきいきサロンへの参加、終活セミナーの企画開催など、地域社会問題の対応に重点的に取組んでいます。

■終活セミナー

今年も継続して周南市内の各施設集会を訪問して終活セミナーを実施しています。

■いきいきサロン

いきいきサロンについても継続して取組み、分別ゲーム・パフォーマンス披露など実施しています。

ポータルハートサービスでは各種の専門家が対応します。

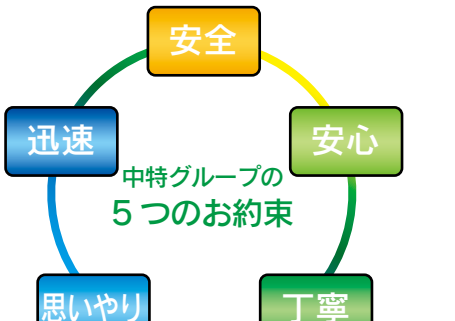
「遺品整理士」「整理収納アドバイザー」「福祉住環境コーディネーター」「終活カウンセラー」などの有資格者が揃っています。

■SB（スクラップ&ビルド）グループ始動

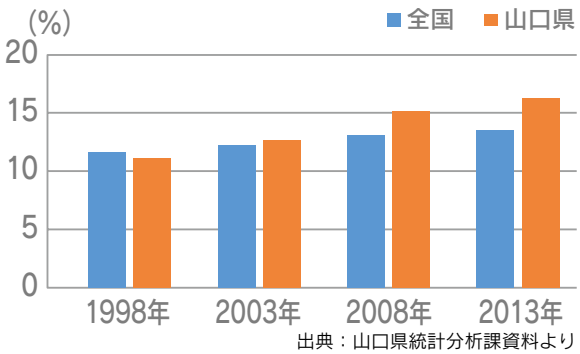
少子高齢化・人口減少とともに空き家問題も顕在化しており、「空家等対策の推進に関する特別措置法」が2015年に施行されました。

山口県の空き家率は2013年16.2%で、この先もこの割合は増えていくことが予想されます。そこで中特グループでは中国特殊㈱に総合解体事業に取り組むSB（スクラップ&ビルド）グループを新たに組織し体制を整えました。

長年放置状態だった空き家が気になりはじめた方、お電話1本トータルでサポートさせていただきます。家屋内の整理から解体・廃材処理に至るまでスムーズに引き継ぎができ安心です。



空き家率の推移



出典：山口県統計分析課資料より

お客様のご意見

ISOが追いついたのでは

Interview

出光興産㈱徳山事業所
安全環境室
衛藤憲生様

9月23日・24日に周南24時間リレーマラソンが復活開催されましたが、中特グループ様の多大なご支援とご協力があって開催できたものであり、大会に参加した一人として大変感謝致しております。本当にありがとうございました。この大会が今後も継続して開催できるよう引き続きご支援、ご協力をお願い致します。

今回、縁あってこの「お客様のご意見」に投稿することになりましたので、本誌、並びに中特グループ様のHPのCSRサイトやニュースリリースに目を通させていただきました。

そこで、まず感じたのは皆さまの「本気度」です。

ISO14001の規格改定があり、中特グループ様は既に7月に新規格への移行が完了しており、今から移行審査を受ける企業等が多いと思われる中で、早々と新規格のもとにEMSを運用し企業経営に繋げており、まずここでEMSの取組みに対する「本気度」を感じとりました。

ISOの今回の改定の主なポイントは、①戦略的な環境マネジメント、②事業プロセスへの統合、③経営者の責任の強化、④対処すべき課題の強化、⑤ライフサイクルの視点に基づく取組み等々、かと思いますが、中特グループ様が数年前から取り組まれてきたことそのものであり、正にこれらの要求事項を満足しているもので、『ISO14001が中特グループのEMSに追いついた』と表現しても過言ではないのではと思っています。

CSRサイトの冒頭に橋本代表のトップメッセージがありますが、そこにはCSV活動に取り組むことも宣言されており、企業が利益を出しながら地域社会にどのように貢献しようとしているのかが読み取れ、CSRとCSVを戦略的に結びつかせ中特グループのブランドイメージアップに繋げていこうとしているのだと察します。

私は周南コンビナート企業の一員として、長年、CSR活動に取り組んできましたが、その違いに初めて気づきました。今でこそ、CSRの活動の中で企業の情報公開。所謂、リスクコミュニケーションは当然のごとく行われていますが、そのきっかけとなったのは2001年に施行されたPRTR法であり、この法の要求事項をうけて、コンビナート企業では合同で年1回、地域の住民の皆様を対象とした「地域対話」を開催しています。また、地域クリーン活動などにも積極的に取り組んでいるわけですが、「本気度」が全く違うなという気がしています。

企業合同ですので、各社の風土もあり1本のベクトルに合わせた取り組みは難しく、どうしても行事消化型となってしまい、地域対話といいながらも膝を交えた対話にはまだまだの感があります。小回りがきくという優位性はあるかもしれませんが、中特グループ様の地元に密着したきめ細かなCSR・CSVの取り組みは是非、学ばさせてもらいたいと思います。

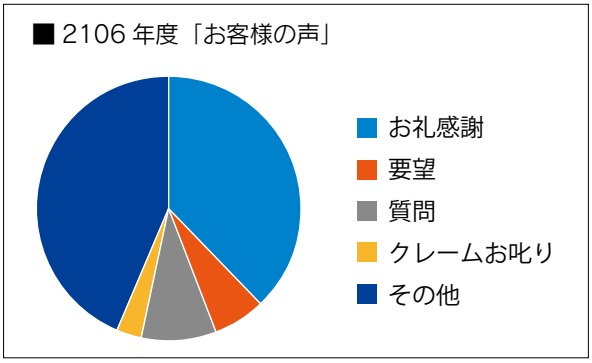
そのような中で、いろいろな方法で情報公開をされており、CSR・CSVの取り組みは十分に理解できるわけですが、企業経営の根幹である安全に対する取り組みの紹介が薄い気がします。廃棄物処理が中心の企業ですので、特に処理という工程の中での安全最優先の取り組みは確りと公開して、顧客に安心感を与えることが企業の信頼性を高めることに繋がると思います。

最後になりますが、中特グループ様のCSR・CSV活動は、「生き残るための取組み」から「勝ち残るための取組み」に必ず繋がると思います。5年後、10年後の大きな目標に向けて、グループの皆様全員が一致団結して邁進されていくことを祈念いたします。

■「お客様の声」分析

【経営目標＆環境目標】№5に示します様、2016年度1,361件の「お客様の声」をお寄せいただきました。

お礼感謝なども多いのですが、お叱りクレームに類するものも43件あり内容調査し、対応を実施しており今後も継続して行きます。



労働慣行

中特グループは、労働慣行と人権に配慮し、ワークライフバランスを含め男女がともに働きやすい雇用環境づくりにつとめ、女性活躍・イクメン応援・多様性を受け入れる人材採用を推進しています。

ANG アネゴネットワーク活動中

世間では女性活躍が叫ばれていますが、中特グループではトップ・管理職・一般社員まで女性が頑張っています。

女性社員で構成し女性の感性による業務改革を進めて行くANGネットワークが鋭意活動中です。

アネゴネットワークの活動は順次ブログで紹介しておりますので是非ブログもご覧ください。現在は社内のみならず社外にもその活動の輪を広げています。何れ全国へ展開する予定です。どうぞ応援よろしくお願いします。

URL http://www.chutoku-g.co.jp/staffblog/

キャンディー作成

甘いものって、見てるだけでも幸せになれますよね！それに加え、疲れたときにいただく甘いものは格別ということで、中特グループより日頃の感謝をこめて、いつもお世話になっている取引先様の女性にメッセージカードとキャンディーのプレゼントを作りました！

乙女たちの綱引き大会

2017年7月22日(土)、第44回徳山夏まつりで行われた「乙女たちの綱引き大会」に中特グループのANG(アネゴ)ネットワークメンバーと社員のご家族で参加しました。

「乙女たちの綱引き大会」は女性のみで行われる、チーム対抗綱引き大会。皆で力を振り絞り、全力で戦いました！

結果は…4戦4敗

健闘しましたが他チームの女性陣の強さに圧倒されました。

働きやすい職場環境を目指して

「やまぐち子育て応援企業」「やまぐちイクメン応援企業」登録

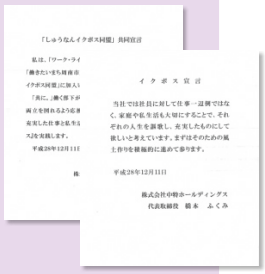
このたび㈱中特ホールディングスが男女がともに働き易い雇用環境づくりで子育てを応援する『やまぐち子育て応援企業』男性が育児参加しやすい雇用環境づくりに積極的な『やまぐちイクメン応援企業』の登録を受けました。

「しゅうなんイクボス同盟」に加盟

このたび㈱中特ホールディングスは2016年12月11日より結成された「しゅうなんイクボス同盟」に加盟いたしました。

「しゅうなんイクボス同盟」とは、子育てや介護など、さまざまな家庭事情を持ちながら働く人のワークライフバランスを理解し、働きやすい職場環境を整える上司を指す「イクボス」の精神に賛同し、各事業所内で「ワークライフバランス」を推進する市内企業、団体、事業所、公的機関、学校が同盟を結成したものです。

加盟事業者は「イクボス宣言」を行い、事業所内でワークライフバランスへの取組みを推進していきます。



インターンシップを経験して

徳山工業高等専門学校
機械制御工学専攻1年
松村　俊志

私はこの夏の2ヶ月の間、(株)リライフでお世話になりました。(株)リライフは前から興味があった会社で、共同研究で特許を取得したこともあり、真っ先に決めたインターンシップ先でした。

インターンシップ中は、共同研究と(株)リライフの未来開発部の業務、現場業務の体験など様々な経験をすることができました。

廃棄物を取り扱う業界は、私がいままで経験してきた「ものづくり」とは全く違う分野で未知の世界でした。しかし、様々な業務を行っていく中で廃棄物と「ものづくり」は切っても切り離せない関係だということがわかりました。それに気づかされたのは、現場業務の体験で行った選別作業でした。

選別作業は、事業者が引き受けてくれる基準を満たすようにいくつかの分類で廃棄物を選別し、大きさの大小や素材は様々で重機で扱うことが難しいものは手作業の選別でした。ひとつの素材でできている廃棄物は選別が簡単ですが、木材と金属を組み合わせたソファーのような複数の素材を組み合わせた廃棄物は工具を使って分解する必要があるため時間を要する作業です。その時もっと簡単に分解できる設計なら、時間を短縮することができるのではないかと思いました。

私の普段の「ものづくり」はリサイクルされることを考慮したことがありませんでした。作ったものはいずれ廃棄物となり誰かがリサイクルしてくれています。これからの「ものづくり」はリサイクルされる先のことを考えた設計ができるようになりたいと思いました。

安全衛生防災活動

災害事故ゼロを目指してグループ挙げて、各管理者・安全衛生委員を中心として安全衛生防災活動に取り組んでいます。

安全衛生防災活動

安全衛生に関する方針

◆基本理念

中特グループは安全衛生・防災はすべてに優先する考えのもと、グループのために働くすべての人の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成促進を行い、グループ全員の健全な心身作りに全力を挙げて取組みます。

◆安全衛生方針

1. 災害事故の撲滅を図ります。

『安全確保は業務を遂行する前提である』思想のもと、リスクアセスメント活動・JBK活動・KY活動・ヒヤリハット活動などを実行し、災害事故の撲滅、未然防止を図ります。

2. 安全衛生水準の向上を図ります。

安全衛生管理のPDCAサイクルを回し、マネジメントシステムの適切な運用により安全衛生水準の継続的向上を図ります。

3. 法令及びその他の要求事項を遵守します。

労働安全衛生関係法令、並びに中特グループが同意するその他の要求事項を遵守します。

4. 健康保持・健康増進を推進します。

グループ全員の心と体の健康保持増進のため、作業方法や作業環境を適切に管理改善し、メンタルヘルスを含めた健康管理・健康増進の活動を推進します。

5. “5S”の行き届いた明るい職場作りを推進します。

コミュニケーションを活発化し「報・連・相」を徹底し、「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」を重視し、安全安心な環境整備に努め、明るく元気のよい中特グループ作りを推進します。

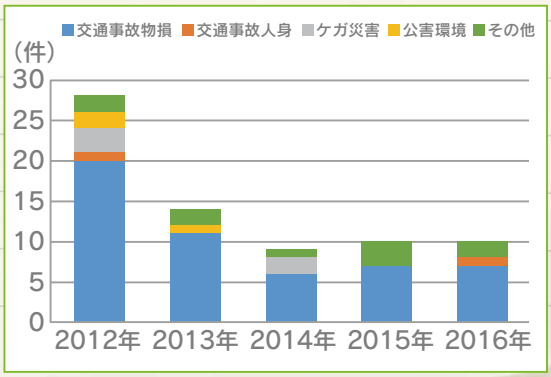
事業発展計画発表会での安全衛生方針唱和

事業発展計画発表会で安全衛生委員会メンバーのリードにより、社員全員で唱和し、安全への意識を高めました。

■災害事故発生状況

業務の内容が車両に関わることが多く交通物損事故が散発しています。

2016年度10件の事故が発生し、交通物損事故７件、その他車両事故２件、追突むち打ち人身事故1件でした。



■安全パトロール

2016年4月から従来の安全巡視パトロールに加えて、現業部門の相互パトロールを実施しています。

実際に社内外の各現場まで出かけて、他部門の管理者の異なった目で新たな改善点を見ようとしています。

■事故撲滅研修会（JBK活動）

中国特殊(株)・(株)吉本興業・(株)リライフ・(株)藤井興業の全ての現業部門で毎月1回JB研修を実施しています。

災害事例の検討・交通KY・リスクアセスメント・等々、各部門で災害事故ゼロを達成するための活動を実施しています。

事故事例研修

KYT4ラウンド法による問題解決研修

■パッカー車積載重量計

規定の積載重量を超えて走る過積載は、法律違反行為です。違反なので取り締まりの対象であり罰則はもちろん、過積載が原因での事故の可能性も高くなります。

(株)吉本興業では、車両積載重量計を順次取付中で過積載を防止し、安全で安心な収集運搬を推進しています。

■各種訓練の実施

緊急事態対応訓練・消火訓練・誘導訓練などを実施しています。

誘導訓練

運転操作訓練
巻き込み防止

軽油スタンド緊急
事態対応訓練

改質施設緊急事態対応訓練

第3者意見

徳山工業高等専門学校　機械電気工
学科　准教授
（兼）株式会社山下工業所　業務改善プログラムオフィサー
株式会社シリコンバレー・ベンチャーズ　アンバサダー
博士（理学）　三浦靖一郎 様

「何のために儲けているのですか？」これは、２０１６年10月に広島市で開催された日米医療機器イノベーションフォーラム（US-Japan MedTech Frontiers）の懇親会で、シリコンバレーの医療機器ベンチャーキャピタリストに私が尋ねた質問です。ベンチャーキャピタリストとは、成長企業に資金提供を行い、その企業の成長に伴う資産価値上昇によって生じる利益の獲得を目指す職業で、言い換えれば、個人の銀行であり投資家、もっとざっくり言えば「お金持ち」です。私の質問に対する彼の回答は、私を「はっ」とさせるものであり、質問したはずの私が「生きる意味は何か？働く意味は何か？」と逆に問いかけられたような感覚となりました。私をそのような感覚にさせた彼の回答は最後にお知らせしますので、少しお考えいただければと思います。

また、私は彼に「企業に投資するのに一番大事なことは何ですか？」という質問もしました。何の実績もないできたばかりのベンチャー企業への投資は高いリスクを伴いますので、投資判断の指標は何か気になっていたからです。私は企業が持つ技術や将来性を重視するのかなと思っていましたが、彼は「その企業の人々だよ。簡単なことだ。」と答え、さらに私が思ったこと先のことを伝えると「技術や将来性を生み出すのは人間であり、事業が成功するためにはチームワークが重要になる。だから、人々が一番重要だ。」と続けました。目的を共有する良い人々で構成された企業は、社会的課題の改善を行うビジネスを展開することで社会貢献が可能です。そして、そのような企業が増えれば、良い人々良い企業が増えることになり、必然的に社会が良くなるというエコシステムの構築が期待できます。彼の答からしっかりとしたビジョンが読み取れ、私は素直に感動するとともにビジョンを持つ大切さを実感しました。

「企業が社会課題等に主体的に取り組むことで、社会に対して価値を創造すると同時に経済的な価値も創造することをCSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）と言います。CSVは、企業の事業とは関係性が薄い活動に対しても当てはまるCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）とは異なる概念です。CSVは、企業の営利活動と社会貢献の関係がわかりやすく、企業イメージの向上だけでなく、顧客や投資者の理解度の向上、企業内外を問わず人々や企業を育て社会を良くするエコシステムの回すための基盤となる考え方と言えます。日本では、伊藤園、キリン、ネスレなどが先駆的に取り入れていますが、今後この考え方を取り入れる企業が増えるでしょう。

国連は「70億人の世界」の「7つの課題」を挙げており、その課題の1つは環境問題です。世界の課題に取り組める（株）中特ホールディングスには追い風が吹いています。私も２０１２年から貴社と一緒に取り組んでいる水環境問題に関する共同研究を通してCSV活動につなげたいと考えています。最後に、儲ける理由に対するベンチャーキャピタリストの答えを記します。「Give back to the community.（社会に戻すためさ。）」。

第3者意見を受けて

示唆に富むご意見をありがとうございます。

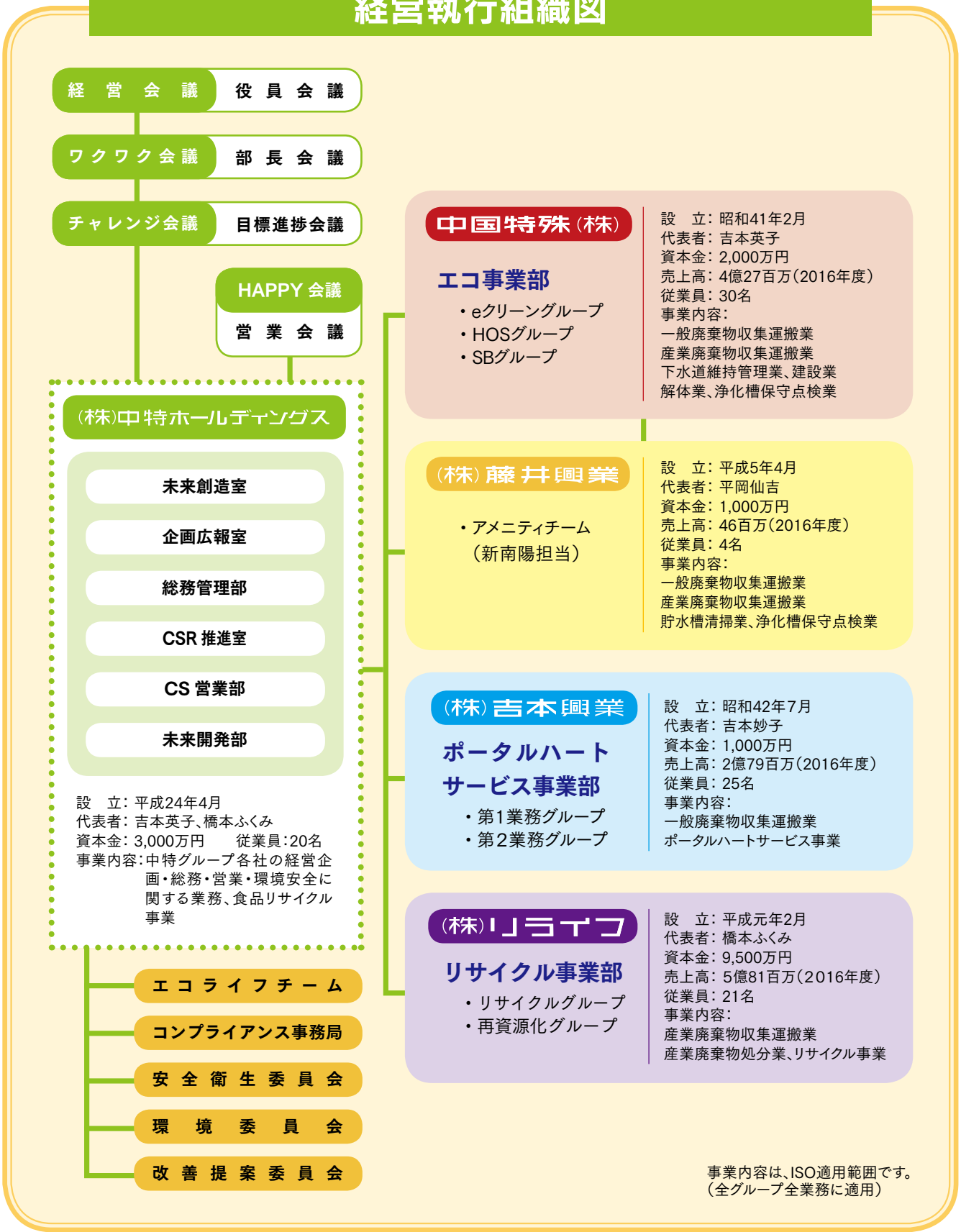
橋本CEOの言う「社会の役に立つ、必要とされる会社は必ず生き残る。社会の役に立つほど事業が発展する。事業が発展するほど社会に役に立つ」を念頭にCSR／CSVをさらに強力に推進する。また、「企業の人々を磨く、人間を育成する＝中特アカデミーによる社員の教育・研修をさらに充実させる。意を強くして環境問題はじめ社会課題の改善に取組んでまいります。

今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願いします。

CSR推進室長　遠藤清治

組織統治

経営執行組織図



事業内容は、ISO適用範囲です。
(全グループ全業務に適用)

Reの種を育てて
Greenな社会をつくる

中特グループ

株式会社 中特ホールディングス
〒745-0801　山口県周南市大字久米 3078 番地の 1
TEL: 0834-26-0500　FAX: 0834-25-2856　http://www.chutoku-g.co.jp/　E メール info@chutoku-g.co.jp

中国特殊株式会社
〒745-0801　山口県周南市大字久米 3078番地の1
TEL: 0834-26-0500 / FAX: 0834-25-2856

株式会社 リライフ
本社：〒745-0801　山口県周南市大字久米 3078番地の1
TEL: 0834-33-8685 / FAX: 0834-25-2856
下松リサイクル工場：
〒744-0002　山口県下松市東海岸通り18番地の1
TEL: 0833-44-0007 / FAX: 0833-44-1007

株式会社 吉本興業
〒745-0801　山口県周南市大字久米 3044番地の2
TEL: 0834-25-0423 / FAX: 0834-25-2939

株式会社 藤井興業
〒746-0017　山口県周南市宮の前 二丁目2番12号
TEL: 0834-63-1294 / FAX: 0834-25-2856

ポータルハートデスク 0120-105-568

VEGETABLE OIL INK